

平成28年12月12日

市政記者クラブ 様

名古屋市健康福祉局健康部
食品衛生課 食品衛生係
担当：水谷、土本
電話：972-2646
内線：2646

ノロウイルス食中毒注意報を発令しました

冬季にはノロウイルスを原因とした食中毒が多発する傾向があります。ノロウイルスによる患者を多く含む「感染性胃腸炎」の患者報告数が増加しており、市内でノロウイルス食中毒事件も発生していますので、食品関係事業者や市民の皆様に対して注意を促すために、「ノロウイルス食中毒注意報」を発令しました。

今後もノロウイルスによる食中毒が発生しやすい状況にありますので、手洗いを十分に行うなど、食中毒の予防に努めてください。

1 発令日

平成28年12月12日（月）

2 発令期間

発令日から平成29年3月31日（金）まで

※食中毒の発生状況に応じて期間中に、「警報」を発令することがあります。「警報」は発令時より1週間効力を有し、その後は自動的に注意報へ切り替わります。

【参考】発令の条件と発令有効期間

	注 意 報	警 報
発 令 の 条 件	ノロウイルス食中毒あるいはその疑いが複数発生するなど、必要があると認めた場合	ノロウイルス食中毒が連続するなど、さらなる注意喚起が必要な場合
発令有効期間	発令日から翌3月31日まで （自動的に解除）	発令日から1週間 （自動的に解除）

3 本日現在の名古屋市内食中毒発生状況（カッコ内はノロウイルス食中毒）

	本 年	去年同期
発 生 件 数	16件（5件）	9件（7件）
患 者 数	245人（135人）	136人（115人）

4 食中毒の予防方法（別紙1）

- ・調理従事者等の手洗いの徹底及び体調管理
（下痢や嘔吐等の症状がある場合は調理を行わないなど）
- ・食品の十分な加熱（中心温度85～90℃で90秒間以上）
- ・調理器具類の十分な洗浄・消毒、嘔吐物の適切な処理 等

5 注意報発令の周知について

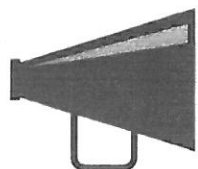
食品等事業者に対し周知するほか、なごや「よい食」メール、名古屋市公式ウェブサイト等により市民の皆様にお知らせします。

6 ノロウイルス対策マニュアル

ノロウイルス対策の詳細については、名古屋市公式ウェブサイトを参照ください。

「ノロウイルス対策マニュアル」<http://www.city.nagoya.jp/kenkofukushi/page/0000006363.html>

名古屋市では平成28年11月～平成29年2月を「ノロウイルスによる食中毒防止キャンペーン」期間として定め、食品等事業者や消費者に対し手洗い指導等の啓発活動を行っています（別紙2）。



ノロウイルス食中毒注意報を発令しました！

例年、冬季には感染性胃腸炎が流行し、ノロウイルス食中毒が多発する状況があります。

名古屋市ではノロウイルスによる食中毒の発生が予想される場合に、「ノロウイルス食中毒注意報・警報」を発令し、注意を呼び掛けています。本日「ノロウイルス食中毒注意報」を発令しましたので、食品の取り扱いには十分注意し、食中毒防止に努めてください。

発令期間

平成 28 年 12 月 12 日から平成 29 年 3 月 31 日まで

※食中毒の発生状況に応じて期間中に「警報」を発令することがあります。「警報」は発令時より 1 週間効力を有し、その後は自動的に解除され、注意報へ切り替わります。

ノロウイルスの特徴

- 人の小腸でのみ増殖し、胃腸風邪のような症状（下痢、嘔吐等）を起こします。
（症状は、一般に数日で回復します。）
- 少ないウイルス量（100 個以下）でも感染します。
症状がなくなっても、しばらくの間、便とともにウイルスが排泄され、食品を汚染したり感染を広げたりする場合があります。
- 感染しても症状のない人もいますが、便にはウイルスが排泄されます。

ノロウイルス食中毒の予防方法

① 手洗いはしっかり

調理前、食事前、トイレの後、オムツ交換後、吐物の処理後は、特に念入りに手を洗いましょう。使い捨て手袋の使用も有効です。

② 食品は中心部まで十分加熱

中心温度 85～90℃で 90 秒間以上加熱しましょう。
加熱調理後も、再汚染のないよう取扱いに注意！

③ 調理器具などを洗浄・消毒

まな板、包丁、食器、ふきん等は、十分に洗浄した後、熱湯（85～90℃で 90 秒間以上）又は、次亜塩素酸ナトリウム（塩素濃度約 200ppm）※で消毒しましょう。
※水 2 リットルに対して市販の台所用漂白剤を 10 ミリリットル加えます。

④ 調理する人の体調に注意

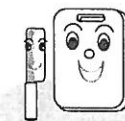
下痢や嘔吐などの症状がある場合は、ノロウイルスに感染している可能性がありますので、調理は控えましょう。

症状がなくても感染している場合があります。日頃から手洗いをしっかり行い、使い捨て手袋を使用するなどして、食品の汚染や他の人への感染を防ぎましょう。

⑤ 患者の吐物は適切に処理

患者の吐物や便には感染力のあるウイルスが残っている可能性があるため、調理器具などよりも高濃度の次亜塩素酸ナトリウム（塩素濃度約 1000ppm）※を使用してウイルスが飛び散らないように速やかに処理をしましょう。

※水 2 リットルに対して市販の台所用漂白剤を 50 ミリリットル加えます。

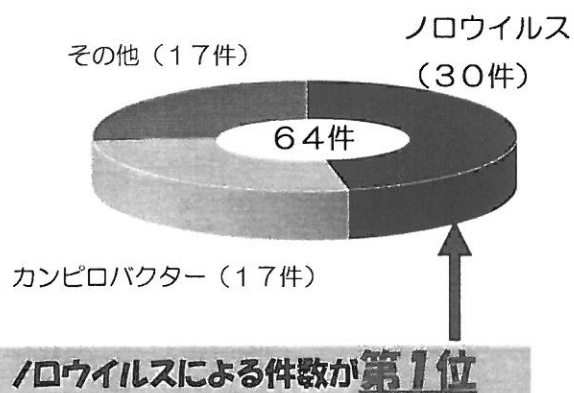


名古屋市における食中毒発生状況

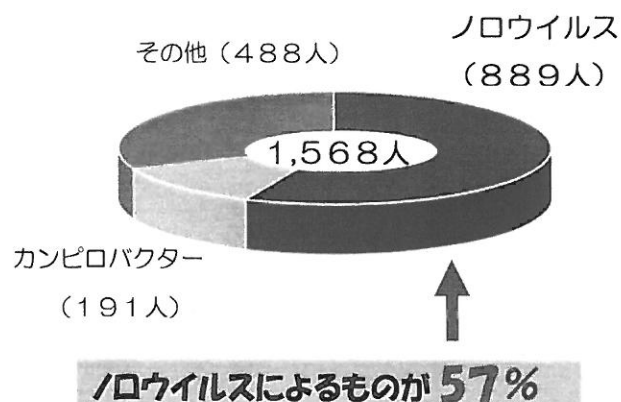
名古屋市で発生した平成 23 年から平成 27 年の 5 年間の食中毒のうち、ノロウイルスによる食中毒の発生件数が最も多く、患者数は食中毒全体の 57% と非常に高い割合を占めています。

	発生件数	うちノロウイルス 食中毒	患者数	うちノロウイルス 食中毒
平成 23 年	14	5	281	144
平成 24 年	17	7	633	284
平成 25 年	8	3	120	63
平成 26 年	16	8	398	283
平成 27 年	9	7	136	115
合計	64	30	1,568	889

H23～27年 食中毒事件数
(名古屋市)



H23～27年 食中毒患者数
(名古屋市)



H23年～H27年 月別ノロウイルス食中毒 事件数・患者数 (名古屋市)

